

教育振興基本計画【後半期】の達成度の評価

			H26年度	H30年度	R3年度 目標	R3年度 結果	評価	評価結果		
①	一貫性のある学びの育成	国語・算数・数学の授業の内容はよく分かると回答した児童生徒の割合	小学生	国語	78	84	83	84	達成	市内授業づくり担当者を定期的に呼び、新学習指導要領で示される授業づくりについて共有するとともに、授業づくりの取組みを推進してきたことが成果につながったと考える。 特に、中学校での成果が見える化されてきたので、更に推進していきたい。
			小学生	算数	74	83	78	87	達成	
		計画を立てて勉強をしている児童生徒の割合	中学生	国語	63	70	68	77	達成	
			中学生	算数	69	68	73	74	達成	
②	読書が好きな児童生徒の割合	小学生	51	61	61	69	達成	タブレットドリルや、フォローアップ講習（中学校）等の活用が進み、成果につながったと考える。今後は、各校の家庭学習における取組みについて情報を共有するとともに、取組みの更なる推進をめざしたい。		
中学生		47	48	56	72	達成				
③	友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意とする児童生徒の割合	小学生	68	69	80	76	未達成	学校図書館司書の在館時間や図書費の増加により、図書館の環境整備が進み、魅力的な本と出合える場面が増えた。（令和3年度の指標は学習意識調査による）		
④		中学生	58	60	70	73	達成			
⑤	豊かな心と健やかな体の育成	自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合	小学生	49	64	60	71	達成	小・中学校とともに、ペア学習やグループ学習を積極的に取り入れ、友だちの前で自分の考えや意見を発表する場面の設定を行ってきたことの成果であると考え。	
			中学生	51	49	60	77	達成		
⑥	豊かな心と健やかな体の育成	いじめはどんな理由があってもいけないと考える児童生徒の割合	小学生	77	85	85	77	未達成	コロナ禍で活動の制限があるなか、各校で創意工夫した取組みを行ってきたことが一定の成果となっている。	
			中学生	62	68	72	76	達成		
⑦	将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合	小学生	95	97	97	96	未達成	道徳の授業改善や、人権学習の取組み等が推進されたことが一定の成果となっている。		
		中学生	72	94	85	96	達成			
⑧	朝食を毎日食べている児童生徒の割合	小学生	87	87	93	78	未達成	コロナ禍により体験型の学習等に制限がかかり、創意工夫したキャリア教育の推進ができなかったことが要因の一つと考えられる。		
		中学生	72	72	80	70	未達成			
⑨	子どもを力ぐの向上	学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいる割合	小学生	93	93	99	93	未達成	課題を抱える家庭が増加傾向にあるが、朝食摂取の大切さや生活リズムを整えることについて啓蒙していく必要がある。	
			中学生	87	90	95	91	未達成		
⑩	子どもを力ぐの向上	学校ホームページのアクセス回数	小学校	88	100	97	100	達成	課題を共有し組織的に対応する体制が構築されている。情報共有については、頻度や方法をさらに検討し、対応を充実させていく必要がある。	
			中学校	100	100	100	100	達成		
⑪	子どもを力ぐの向上	授業では自分の考えを発表する機会が与えられていたと思う児童生徒の割合	小学校	72,802	125,408	90,000	385,886	達成	コロナ禍での一斉休校等により、学校ホームページによる発信の有効性が改めて認識され、注目度が高まった。閲覧者が増えたことで、さらに積極的な発信を行うことにつながった。	
			中学校	94,282	71,665	110,000	224,972	達成		
⑫	子どもを力ぐの向上	授業では自分の考えを発表する機会が与えられていたと思う児童生徒の割合	小学校	81	88	90	87	未達成	新学習指導要領における「主体的・対話的で深い学び」の重要性が、教員に浸透し、教授型の授業から児童生徒中心の授業に変容してきたことによる成果であると考え。（令和3年度の指標は学習意識調査による）	
			中学校	69	83	80	86	達成		
⑬	子どもを力ぐの向上	授業では、児童生徒の間で話し合う活動がよく行なっていたと思う児童生徒の割合	小学校	81	85	90	91	達成	新学習指導要領における「主体的・対話的で深い学び」の重要性が、教員に浸透し、授業でペア学習やグループ学習等、話し合い活動が積極的に取り入れられたことによる成果であると考え。（令和3年度の指標は学習意識調査による）	
			中学校	58	71	70	89	達成		

教育振興基本計画【後半期】の達成度の評価

			H26年度	H30年度	R3年度 目標	R3年度 結果	評価	評価結果
⑬ 地域の豊かな学びの育成	市主催の講座受講者数	市主催の講座受講者数	25,304	19,250	30,500	10,782	未達成	講座受講者数の減については、コロナ禍により講座数の減少が要因である。コロナの感染状況が落ち着いてきたため今後は大学、民間企業と連携し、幅広いジャンルの講座を増やしていきたいと考えている。
	池上曽根弥生学習館・織編館の入館者数	池上曽根弥生学習館	13,413	10,537	14,800	4,397	未達成	弥生学習館は、コロナ禍による臨時閉館と学校団体が学校外行事を中止したことなどにより、入館者数が伸びなかった。織編館は令和2年11月をもって展示室を閉室したことにより、入館者のカウントができない。今後、市民の学びの機会を失うことのないよう事業展開を進めていく必要がある。
		織編館	9,010	7,110	10,000			
	文化・芸術・スポーツのイベント参加者数	文化・芸術・スポーツのイベント参加者数	10,514	8,636	11,000	6,541	未達成	参加者数の大幅な減については、コロナ禍によるイベントの減少が大きな要因である。コロナの感染状況が落ち着いてきたため、今後は市民や市民団体から自発的に行えるイベントを増やしていくとともに、評価指標についての検証、例えば実際行った事業の満足度調査なども検討していく必要があると考える。
	⑭ 今住んでいる地域の行事に参加している児童生徒の割合	小学生	53	55	62	46	未達成	コロナ禍により、児童生徒が参加できる行事が相次いで中止となっていることが要因と考えられる。
中学生		31	28	42	25	未達成		
⑮ 安全・安心な学びの充実	小中学校体育館非構造部材の改修率	小中学校体育館非構造部材の改修率	55	100	100	100	達成	計画的な改修計画から、H27年度に小津・東陽・誠風中学校の改修が完成した。今後も、適切な予算計画により継続した維持管理を行っていく。
	⑯ 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある児童生徒の割合	小学生	53	55	62	47	未達成	全国学力・学習状況調査の「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」の設問がなくなり、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」の数値と比較したため評価は難しいが、地域と協働して行う取組みにより、児童生徒の意識醸成を推進する必要がある。
		中学生	47	51	60	41	未達成	
	⑰ 教育支援センターの教育相談件数	教育支援センターの教育相談件数	600	448	670	600	未達成	未達成ではあるが、市HPによる周知や、児童生徒の保護者に向けてのプリントでの周知により、相談件数について、児童生徒数が減少している中でも一定の成果がでていていると考える。
⑱ 訪問型家庭教育支援サポーターの訪問回数・児童生徒数	訪問回数	558	382	585	413	未達成	新型コロナウイルス感染症の感染拡大が、訪問回数の目標未達成の要因の一つであると考えますが、一つひとつの家庭の状況を丁寧にアセスメントし、訪問ペースを精査していることも要因の一つであると考えます。	
	児童生徒数	29	52	33	22	未達成		